

春は4オケで名曲ざんまい!



©S. Yamamoto

シューマン:交響曲第1番「春」
関西フィルハーモニー管弦楽団 × 藤岡幸夫
(首席指揮者)



©S. Yamamoto

モーツァルト:「ジュピター」
交響曲第41番
大阪交響楽団 × 外山雄三 (名誉指揮者)

AオケのA大シンフォニー

2022



©坂島隆

チャイコフスキー:交響曲第5番
大阪フィルハーモニー交響楽団 × 尾高忠明
(音楽監督)



ドヴォルザーク:「新世界より」
交響曲第9番
日本センチュリー交響楽団 × 秋山和慶
(ミュージックアドバイザー)

2022 **4/16** [土] 14:00開演 (13:00開場) *18:00終演予定

フェスティバルホール | 大阪市北区中之島2-3-18

チケット料金 (全席指定・消費税込み)

S席 9,500円 / A席 7,500円 / SS席 11,000円 / BOX席 15,000円 / バルコニー BOX席 (2席セット) 19,000円 / 学生席 3,500円

* バルコニー BOX席はフェスティバルホール チケットセンターでの電話予約・窓口販売(12/19[日]~)のみ

* 学生席はフェスティバルホール チケットセンターのみで販売(25歳以下 / 学生本人の名前でご予約ください / 当日指定席と引き換え / 引き換え時、学生証をご提示ください)

2021.12/18[土] 10:00 チケット一般発売

フェスティバルホール チケットセンター **06-6231-2221** (10:00~18:00) <https://www.festivalhall.jp> (要事前登録)

* フェスティバルホール「友の会」先行予約: 12/11 [土]~ * 窓口での取り扱いは 12/19 [日]~ (残席がある場合のみ)

チケットぴあ <https://t.pia.jp> [Pコード: 206-695]
ローソンチケット <https://l-tike.com/> [Lコード: 53222]
CNプレイガイド <https://www.cnplayguide.com/> 0570-08-9990
e+(イープラス) <https://eplus.jp/>
セブンチケット <http://7ticket.jp/sc/21nh>

| | | |
|---|---|--|
| 各オケ会員 先行予約 12/13 [月]~ 一般発売 12/20 [月]~ | 大阪交響楽団 大阪フィル・チケットセンター 関西フィルハーモニー管弦楽団 センチュリー・チケットサービス | 072-226-5522 (平日 10:00~17:00) 06-6656-4890 (平日 10:00~18:00 / 土曜 10:00~13:00 / 日祝休み) 06-6115-9911 (平日 10:00~17:00 / 土曜 10:00~16:00 / 日祝休み) 06-6848-3311 (平日 10:00~18:00) |
|---|---|--|

主催: 朝日新聞文化財団、朝日新聞社、フェスティバルホール、大阪交響楽団、大阪フィルハーモニー協会、関西フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団
特別協賛: 日本取引所グループ(JPX) 協賛: サントリーホールディングス

* やむを得ない事情により曲目、出演者等が一部変更になる場合がございます。公演中止の場合を除き、チケットの変更・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。※ 未就学児のご入場はご遠慮ください。



大阪の春を彩る「4オケ祭」、2022年も開催します!

今年の「4オケの4大シンフォニー」は、副題(ニックネーム)付きの愛されタイトルを中心に、四つの有名曲が集まりました。シューマンの第1番「春」(関西フィル)はクララとの結婚を果たし、人生の春を謳歌していたころの喜びあふれる作品。モーツァルトの第41番「ジュピター」(大阪響)は、力強く壮大な曲想から、ローマの最高神ユピテル Jupiter の名で呼ばれています。チャイコフスキーの第5番(大阪フィル)は、「運命の主題」と呼ばれる旋律が印象的な円熟期の傑作。そしてドヴォルザークの第9番「新世界より」(センチュリー響)は、アメリカの音楽院で院長を務めていた時期に、故郷ボヘミアへの思いを込めて書かれました。

1 | 藤岡幸夫 [指揮] 首席指揮者 関西フィルハーモニー管弦楽団

Message

このとんでもない企画は大阪ならでは!

4つのオーケストラの事務局、裏方のチームワークが素晴らしいからこそ実現できる素晴らしい祭典!! 今年は今先でシューマンの交響曲第1番「春」を演奏いたします。シューマンがクララと幸せを掴んだ時に生まれた、幸せいっぱいの交響曲!

関西フィルとは毎年30公演以上の共演を重ねて今年で23年目のシーズン! 我々ならではの一体感溢れたエキサイティングな演奏をお届けいたします! お楽しみに!



©SHIN YAMAGISHI

Profile

1970年発足の関西フィルは、オーギュスタン・デュメイ音楽監督のほか、首席指揮者藤岡幸夫、桂冠名誉指揮者飯守泰次郎の3指揮者を擁している。BSテレ東の音楽番組「エンター・ザ・ミュージック」(BS 7ch 毎週土曜朝8:30~)に藤岡幸夫と共に出演中。2015年には、スイス・ドイツ・イタリアの3カ国5都市を巡るヨーロッパツアーを開催し、各地で大きな注目を集めた。

指揮者藤岡幸夫はマンチェスター室内管弦楽団、日本フィルを経て、現在、関西フィル首席指揮者、東京シティ・フィル首席客演指揮者。毎年40公演以上を指揮し、2022年には23年目のシーズンを迎える関西フィルとの一体感溢れる演奏は常に高い評価を得ている。

2 | 外山雄三 [指揮] 名誉指揮者 大阪交響楽団

Message

モーツァルトの交響曲は、私たちにとっては、どれをとっても、いわば宝物のような存在である。番号付きのものだけを考えても、どれも区別ができないほどの充実ぶりであり、しかも、ひとつひとつが個性豊かで優劣はつけられない。それを演奏する機会を頂戴したのは特別な幸運である。特に、この「41番」は、まさに音楽史上に、一際高く聳え立つ名作、と言っても過言ではないだろう。私たちの全てをこの演奏に捧げなければならない。



©K. Miura

Profile

1980年創立。創設者である、永久名誉楽団代表・数島博子(故人)が「聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を!」を提唱。いつも聴衆を「熱く」感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。2022年4月、新指揮者体制として、山下一史(常任指揮者)、柴田真都(ミュージックパートナー)、高橋直史(首席客演指揮者)の3名の就任を予定しており、さらなる楽団の飛躍が期待されている。

指揮者・作曲家の外山雄三は、N響を皮切りに大阪フィル、京都市響、名古屋フィル、神奈川フィル、仙台フィルの要職を歴任。海外からも度々招かれる。オペラの分野でも数々の日本初演を手がけた。作曲家としては「管弦楽のためのラブソディー」が特に有名。現在、N響正指揮者、大阪交響楽団名誉指揮者、浜松フィルミュージックアドバイザー。

3 | 尾高忠明 [指揮] 音楽監督 大阪フィルハーモニー交響楽団

Message

私たち指揮者は複数で一緒に演奏会をすることはめったにないが、この演奏会はいつも他の3人の指揮者とお会いできて実に楽しい。前回も、他のオーケストラと指揮者の演奏を大いに楽しませてもらったし、良い刺激をたくさんいただいた。大阪の音楽愛好家は四つのオーケストラの個性の違いなどが楽しめるわけで、素晴らしいことだ。今回も外山先生、秋山先生(実の私の師匠!)、藤岡さんと大いに楽しませていただきたい。

今年にはチャイコフスキーの5番、この曲ではN響との北京公演が忘れられないし、最近では昨年のチャイコフスキーチクルスで、皆様に聞いていただいたばかりだが、演奏というのは毎回変容する。2022年4月の演奏、今から楽しみにしている。



©Martin Richardson

Profile

1947年朝比奈隆を中心に「関西交響楽団」という名称で創立、1960年改称。創立から2001年までの55年間朝比奈隆が音楽総監督・常任指揮者を務めた。大植英次、井上道義の後を受け、2018年4月より尾高忠明が音楽監督に就任。現在、フェスティバルホール(大阪・中之島)を中心に全国各地で演奏活動を展開している。

尾高忠明は国内主要オーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン響、ベルリン放送響など世界各地のオーケストラへ客演。現在、NHK響正指揮者、BBCウェールズ・ナショナル管桂冠指揮者、札幌響名誉音楽監督、東京フィルハーモニー響桂冠指揮者、読売日響名誉客演指揮者、紀尾井ホール室内管桂冠名誉指揮者を務める。

4 | 秋山和慶 [指揮] ミュージックアドバイザー 日本センチュリー交響楽団

Message

一つの公演で4つのオーケストラを聴き比べできる「大阪4オケ」公演。

私はこの第8回目ので初登場になるので気を引き締めて良い演奏ができるよう励みます。

演奏曲目のドヴォルザーク:交響曲第9番「新世界より」は「運命」「未完成」「新世界」で3大シンフォニーと言われ多くの公演で演奏されています。

聴き馴染みのあるポピュラーな曲なので、演奏する方も楽しくやりがいがあります。

日本センチュリー交響楽団と共に張り切って素晴らしい音楽をお届けいたします。



Profile

大阪府豊中市に本拠地を置くオーケストラ。1989年に活動を開始し、2019年に創立30周年を迎えた。飯森範親が首席指揮者を、秋山和慶がミュージックアドバイザーを、久石譲が首席客演指揮者を務め多彩な活動を行っている。ザ・シンフォニーホールや豊中市の芸術拠点である豊中市立文化芸術センターなどで定期的に演奏する他、地域発展や教育プログラムにも力を入れている。

秋山和慶は日本を代表する国際的指揮者。パンクーパー響音楽監督(現在桂冠指揮者)、シラキユース響音楽監督などを歴任。現在、中部フィル芸術監督・首席指揮者、日本センチュリー響ミュージックアドバイザー、東響桂冠指揮者など多くの任を務める。サントリー音楽賞など受賞歴も多数。2014年文化功労者に選出。

